遠藤洋子さんの訴え

２０１２年3月２３日

今までの生活経験すべて話したいと思います。

まず、原子力災害という言い方が国会でもされてるようなんですけども、完全な事故だと思います。地震のあとの津波のせいにしているということがとても許せません。もとから双葉断層があって、地震がおきたらひとたまりもないということを何度も反原発の闘いの中で言ってきたんです。ところがその度に安全と言われた。今回の地震でまったくそれが露呈したわけです。私たちは許すことができません。しかも今回の事故によって国と東電がお互いに罪をなすりあっているということが見えてきました。政治に無関心であった人がテレビ等を見て思ってきていることも事実だと思うんです。

このあいだNHKで言っていましたけども、私たちも同じようなことを考えていました。地震・津波被害を被っただけでなく、１２日に避難を余義なくされたものですから、助けられた人を助けられなかったこの苦しみは何事にも変え難いです。人の命をなんだと思っているんですか。ここのところを強く言いたいです。そして特に高齢者・病人も含め多くの犠牲者が出ました。この人数はほんとに少ししか出されていないですね。ここに目を向けて下さい。避難生活が１年経って、今まさに人がどんどんなくなっています。私もこの１週間で5回ですよ、お葬式が。こんなことありますか。避難さえなかったらこんなこと起こり得なかったですよ。高齢者がどんどん亡くなっています。こないだ新聞に 26 歳で亡くなった人のお葬式の事が出ていました。あり得ない人たちが亡くなっています。ここを見落とさないで下さい。

補償の問題ですけど、一人あたり１０万円という補償はどこから来ているんでしょうか。私たち、1 年たって心の苦しみは減るどころか、ますます増してきている。こないだ審議会の中で帰れないところにはまとめて600万円支払う、つまり５年分ですね。確かにお金がなければ生活できません。そして、どこに住まいを求めればいいのかということが決まらないために仕事も見つけられない。これもまた事実なんです。ここを考えてください。お金さえ与えればいいんだと。動物ではない。家畜ではありません。私たち国民です。そこを忘れないでください。事故さえなかったならば、何とか生活ができていたんじゃないかと思います。何の反省もなく、私たちに手を差しのべることもなく１年間が過ぎ去ったということをここで述べたいと思います。

そして私は国会議員の方たちがどれくらい被災地に入ってるのかな、もう入れるようになっている。人がいない街を見て下さい。当番制でもいいから全国会議員が見るべきです。どういう悲惨な状況なのか。目に見えない放射能ってどんなものか。私は２度公的に入っております。３回目の案内が来ておりますが私は入っておりません。実際に入るときは心臓がどきどきしてくるんです。そして時間がたつとピッピッと機械の音が鳴るんです。こういうこと分かりますか。経験してみないと分からないことなんです。これが今の現実の福島で起きている。そして、関東に大震災が起きるということが言われています。私が喜んでいるの

は４月いっぱいで全部の原子炉が止まるということ。福島の二の舞を起して欲しくないんです。日本人のためにも日本国民のためにも、政治なんて言っている場合じゃないですよ。このような事故が起きたら政治もお金もなんにもなくなります。現に私たちの生活がそうです。財産の全てを置いてきています。自分の家の中に。勿論津波でなくなってしまった人もいますけど、双葉郡のほとんどの人は家は流されていないんです。そういう中での生活を考えて下さい。本当に大変な状況なんです。家に帰りたいと涙ながらに訴えています。そういう声を聞きとって下さい。国会の場でどういう議論がなされているのか。私は国会に行って聞きたいし、政治家１人１人に聞きたいです。あなたたち本当に改革をさせたいの。そう言いたいです。こんな仕打ちないですよ。６０年もたって、広島・長崎に原爆が投下されて、広島の人たち長崎の人たち、大変だったよね。私たちはそこに共鳴して、なんとかもうそんな世界は作りたくないと、日本人の手で原発事故が起きてしまったんですよ。ここを治していかなくてどうするんですか。

そして、今福島で起こっている事は、これからの社会の担い手である子どもたち、その医療費、これを出さないって言うんですね、国が。知事は国が出さないなら県が出しますと。県が出してどうするんですか。県がやった事故ですか？これは。これは国策ですよ。国がやった事故です。お金をあげれば解決できるような問題じゃない、これは。いつの時代までかかるかわからないんです。県の予算でずっと未来永劫できますか。そこのところをもう一度考え直して欲しいんです。ここのところを本当に訴えていきたいです。そして私たちが本当に早く郷里に帰れるようにして欲しいんです。そして日本中の人々が安心して暮らせる日本を作って頂きたいんです。この事以外にないと思います。私たちのような悲惨な事故の、そしてこのような生活をさせられている人間をこれ以上増やしてはいけないと思います。ぜひともここのところを踏まえて、今日の交渉に臨んでいきたいと思いますし、是非いい回答をいただけるようにお計らいください。よろしくお願いします。

悲惨な１年を基に訴える遠藤洋子さん

2012 年 3 月 23 日、衆議院第 2 議員会館

復興庁のコメント

今頂いたお話し、ご意見は、我々もですね、福島の皆様ほんとうにご苦労されておることは重々承知しておりまして、我々なりに一所懸命努力はさせてもらっております。医療費の無料化については前回もお答えをいしましたけれども、いろいろと関係閣僚の間でも議論本当にしたんですけども、ああいう結果になったということでございます。我々としても子どもの健康管理というのはしっかりやっていかなければいけないという思いはもっておりますので、健康調査という形でしっかり対応していきたいと思っています。簡単ですが以上でございます。